

平成 31 年度ウミガラス保護増殖事業 実施計画（案）

1. 誘引対策

- (1) 音声装置の稼働
ウミガラスを誘引する音声装置を、赤岩基部に可能な限り 3 月中に設置・稼働する。
- (2) デコイの設置作業
老朽化・破損したデコイを繁殖期終了後の 8 月下旬頃に交換する。

2. 飛来・繁殖調査

繁殖地内カメラや目視等により、飛来数、餌運び、雛及び巣立ち等の調査を実施する。特に近年は繁殖範囲が拡大していることから、できる限り広角にカメラを設置し、繁殖箇所の把握に努めるようにする。

- (1) 繁殖地内カメラ及び関連機器の設置・稼働
メンテナンスを終えたカメラ及び関連機器を 4 月中に設置し、動作確認を行う。
また、カメラについては、画像解析に係る精度の向上と作業の効率化のためハイビジョン化を行う。なお、ハイビジョン化については、葛西臨海水族園が申請する野生動物保護募金助成事業（事業主体：日本動物園水族館協会）により実施する予定。
- (2) 渡り調査
ウミガラスの渡りの時期である 10 月～翌年 3 月に、航路センサスによる渡りの調査を、月 1 回程度実施する。
- (3) 目視調査
その他随時、目視による調査を行う。

3. 捕食者対策

平成 30 年度に引き続き、オオセグロカモメ・ハシブトガラスの捕食者対策を実施する。

- (1) 銃器（エアライフル）による捕獲
 - 1) 実施時期
5 月から 8 月（週 1 回程度）（6 月下旬から巣立ち終了時期までは、週 2 回）
 - 2) 実施範囲・捕獲上限数
 - a) オオセグロカモメ
ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある赤岩対崖繁殖地周辺の個体を捕獲する。ただし、近年のオオセグロカモメの繁殖状況を踏まえ、状況に応じて捕獲範囲を縮小するなどの対応を行う。
 - b) ハシブトガラス
ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある海鳥繁殖地・ねぐら周辺の個体を捕獲する。
- (2) モニタリング調査
ハシブトガラスについて、抱卵期・育雛期・巣立ち期などステージごとの個体数をラインセンサス調査などで把握し、効果的な対策方法や時期などについて、引き続き、検討を行う。
オオセグロカモメについても、天売島海鳥研究室の調査に協力し個体数に変動がみられるか調査する。
- (3) ハシブトガラスの試行的な巣落としによる捕獲
別途事業（国立・国定公園の海域適正管理強化事業（マリンワーカー事業））により、ハシブトガラスの巣落としによるヒナ・卵の捕獲を行い、ハシブトガラスへの捕獲圧等の効果の有無等を調査する。

